

地域交流の場に自宅開放

前田やすゑさん (清見台)



清見台に住む、近所の方から1丁目の前田やすゑさん(86)のお噂を聞いて興味を抱いていました。

前田さんは平成17年10月にご主人を天に見送られ一人住まいになりました。その年の6月に息子さんが近所に家を購入しばかりでしたが、前田さんと同居することにしました。息子さんは購入した家には一度も住むことなく「空き家にしていても勿体ないから、お友達に遊びに来てもらっていいよ」との一言か

ら、みんなが『集まる家』となりました。

皆さんが集まる日に取材をお願いして門前に立つと歌声が流れていました。さらに香水のような甘い香りが漂ってきました。目を見張ると小さな植木の側に紫色のスマレが咲き誇っているのです。お邪魔すると男女10名ほどが集まっています。

食べてワイワイにぎやかに談笑

平成19年ごろから地域の交流の場に。ゲートボールの帰り「私の家に寄って！お昼一緒にしない？」と、声をかけたことから始まりました。2、7人が集まり、お弁当を買ったり出前を取ったり、人数も増えたので『タンポポの会』を結成。年数を重ね親睦を深め、たこ焼きやお好み焼きパーティーで談笑しながら賑わ

い、話題もさまざまです。高齢化が進み施設に入所したり、入院したりですが集う日には、この日のために外泊、楽しみに来られるそうです。「今度は〇〇さんの退院祝いをするよ」と仲間寄り添う心に励まされました。



生きる希望を見つけた



息子さんがアメリカへ留学中にクリスチャンになられて帰国。近くの河内長野聖書教会へ集うようになりました。前田さんも一緒に来たかったのですが、実現しませんでした。家を開放してから5年後、平成24年に思いが叶い受洗。みんなが『集まる家』に牧師を招き、家庭集会が持たれるようになりました。月1回、午前10時〜午

後2時位まで。
「ここに來るのが楽しみ。牧師の話は分かりやすく親しみやすい」
「気づかなかったことに気づかされ心が元氣になった」

「行き場所が与えられて家を開放してくださる前田さんに感謝します」 前田さんは「みんなが喜ぶ顔を見るのが私の喜びです」と物静かに微笑ましく語ってくれました。

息子さんが一人になった母を思いやる一言で前田さんが自宅を開放。地域の交流の場、お茶の間となりました。行き場を失って孤独のなかで一日中誰とも話す事がない人たちにとつて『集いの家』は共に笑い、共に歌い、共に食してにぎわう場になりました。

人と人の繋がりが希薄になつていく世の中、昔のような近所づきあいを復活させている前田さんのような方が増えていく事を願って紹介させていただきます。
(西野 まり子)